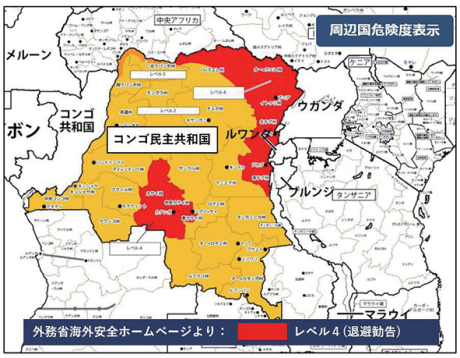
MONTHLY
かわせみ通信
12月号
2017年12月
Vol.100
発行所 株式会社東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE
本社／三重県四日市市午起2丁目4番18号（〒510-0023）
TEL.059-332-5122（代） http://www.tokai-techno.co.jp

出ずるを制して入るを量る！ ～高騰資源への“もったいない”運動～

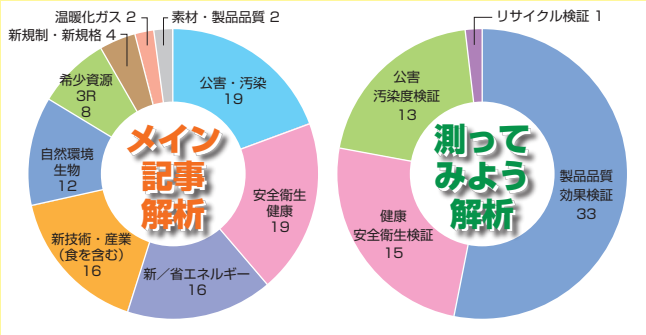
2040年までにガソリン車の販売を禁止して電気自動車を推進すると公表した国と地域には、この2017年末現在でイギリス、フランス、オランダ、ノルウェー、インド、中国、米国カリフォルニア州、スペインのバルセロナ、デンマークのコペンハーゲン、カナダのバンクーバーがあるが、こうした動きを受けて電気自動車（EV）や蓄電施設に活用されるリチウムやコバルトなどの電池原料の争奪戦が始まっている。リチウム電池の原料となる炭酸リチウムの価格は昨年までの5年間で倍以上に値上がりし、本年の統計ではさらに高値を更新する予想だ。主産地であるオーストラリアでは、鉄鉱石というオールドエコノミーからこうした新たな資源への投資シフトが急激に進み、その投資が投資を呼んでバブルの様相すら呈している。このリチウム以外にも、ニッケル含有量はリチウム電池の充電容量や電池の高性能化に大きく関わるほか、一般的なＥＶ用電池には15キログラムものコバルトが必要とされることから、グラファイトなども含めて電池関連資源は需要増大→価格高騰→投資加速の上昇気流に乗っている。反面その過熱ぶりから、コンゴなど紛争地域を主産地とするコバルトは、米アップルが本年3月、従来の紛争鉱物指定対象に加えるといった動きも出ている。一方我が国はというと、こうした資源競争と一線を画そうと、海底からこれら資源鉱物を採掘しようといくつもの実証試験を繰り出している。しかしながら、メタンハイドレートと同様コストが割高である上、民間企業が事業参入するに必要な資源量の把握もできておらず、いまだ商業化には遠い。とはいえ、その値の張る資源の使い方や回収方法にもまだまだ改善の余地がありそうだ。当社も調査に協力し来年5月に学会で報告される日本の河川におけるLi、Mn、Ni、Coの濃度に関する研究では、これらの資源が回収しきれずに工場から河川に排出されていることが示唆された。資源高騰が続く中、故事ことわざとは逆の「出ずるを制して入るを量る」という地味な戦略も馬鹿にはできない。



資源マネーは紛争の火種ともなる

測ってみよう！探検隊 番外編 “解析してみよう！探検隊”

「ちょっとマニアックなニュースレターはいかがですか？」と、2009年9月に創刊号を発刊した『かわせみ通信』は、単なる広告媒体でなく、皆様の業務や科学･工学的関心に直結する情報をお届けする月刊ニュースレターとして、今回の12月号をもって100号を迎えました。特に環境･安全･健康面においてのリスクやメリットの先取りを意識した情報を主体とする「メイン記事」、そして分析試験所としての特徴を活かした「測ってみよう！探検隊」に力を入れてきました。しかしながら、科学･工学的分野は広い割にどうも記事の傾向に偏りがあるぞという感触もあり、100号を機会にその傾向を解析して反省し、“温故知新”の心を持ってこれからの企画に活かそうということになりました。拾い出し結果は下図の通り。やはり業種や担当者の嗜好、得意分野が如実に出ています。今後もこうした反省を踏まえて皆様に楽しんでいただける誌面をお届けできるよう努めてまいります。



株式会社タケエイとの資本提携の解消及び業務提携継続に関するお知らせ

当社は平成29年11月16日を以って株式会社タケエイ（コード： 2151 東証第１部）との資本提携を解消いたしました。今後も業務提携は継続し、3R社会に貢献してまいります。
詳しくは株式会社タケエイのホームページ（IR・投資家情報）にてご確認下さい。 http://www.takeei.co.jp/

第100号発刊の御礼 代表取締役 市田 淳一

このかわせみ通信も、読者の皆様のお陰を持ちましてめでたく100号を発刊することができました。月1回発行で100号というと8年と3ヶ月。独自の視点での理系記事やありそうで無いデータの検証、やっかいな質問を省エネモードで･･など、やや実力に見合わない目標でスタートしただけに、当初は1年持てばありがたいという思いも正直なところありました。中にはネタや視点としてはかなり苦しい記事もあったとは思いますが、クレームや購読停止のご連絡もなく温かい眼差しで見守っていただきましたことに心より感謝いたします。今後も目標を曲げることなく続けてまいりますので、変わらぬご購読のほど宜しくお願いいたします。

編集後記

記念すべき100号、編集員となってからの年月を思うと感慨もひとしおです。その間、様々なご感想を読者の方々からお寄せいただき、励ましをいただいたと感じています。
ありがとうございます。今後も皆様とのコミュニケーションの一役になればと思いながら続けてまいります。最後になりましたが、皆様よい新年をお迎えください。（みっちー）